

平成4年度赤潮貝毒監視事業（赤潮調査：抄録）

吉田正雄・大塚弘之・萩平 将

本事業は、瀬戸内海関係 12 府県が参加し、赤潮の多発期に海洋調査を実施して、赤潮の発生予察手法の確立を図るとともに、漁業被害の未然防止と軽減対策に資することを目的として、昭和 51 年度から継続実施中の事業である。

平成4年度における播磨灘南部海域での気象・海象およびプランクトンの出現動向について取りまとめたので報告する。なお、詳細については、「平成4年度赤潮貝毒監視事業報告書（赤潮調査）」を参照されたい。

1. 気 象

気温：一般的に低目で推移し、6月中・下旬および8月上・中旬は、平年より1~2 の低目であった。

日照時間：6月上旬・7月下旬・8月下旬~9月上旬は多目、その他の期間は少な目で推移し、8月上旬~中旬には特に少なかった。

降水量：一般的には少な目で推移したが、8月には連続した台風の影響を受け100~200mm/旬の多目となった。

風：一般的には平均2~3m/secで推移したが、8月上・中旬には5m/sec以上の強い風が吹いた。

2. 海 象

水温：表層で20 を越えたのは6月中~下旬、底層では7月上~中旬であった。水温成層は7月下旬に発達した。

塩分：一般的に低目で推移し、表層では30.9~31.2であった。8月中旬以降は、台風の影響により塩分低下が顕著であった。

透明度：平均7.8mで推移し、前年より沖合で1mの低目、沿岸で逆に1mの高目であった。

酸素飽和度：表層で63~128%、底層で60~112%の間で推移し、底層での貧酸素化はみられなかった。

栄養塩：表層での推移は、 $PO_4 - P$ が $0.1 \mu g - at / \ell$ 以下、 DIN が $1.0 \mu g - at / \ell$ 以下、 $SiO_2 - S$ が $5.0 \mu g - at / \ell$ 以下の低濃度の値が多くみられた。底層では、7月下旬~8月下旬には台風の影響による高い値が観測された。

3. プランクトン

採水法による優占種は、6月渦鞭毛藻、7月上旬珪藻、7月中旬渦鞭毛藻、7月下旬以降珪藻であった。一方、シャットネラの出現推移は、6月29日に $0.01 cells / ml$ 初検出した後、7月中旬から増加をはじめ、7月30日には本年度の最高出現数である $6 cells / ml$ が検出された。以後は減少傾向となり、濃縮試料が

らは,9月下旬まで認められた。

ネット法による平均沈澱量は,99ml / m³で前年に比べ若干増加した。